

令和6年度
入学試験問題

第2回

国語

- 1 問題用紙は監督者かんとくしゃの指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点くとうてんや符号ふごうは一字として数えるものとします。
- 5 問題は1ページから17ページまであります。

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	------------	--

森村学園中等部

一 次の文章は、「いやな気持ち」に対処する方法を社会学者が解説しているものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

心理療法しんりりょうほうでは、クライアアントはカウンセラー*に困り事を相談します。それはみなさんもご存知の通りです。

ですが「相談する相手が見つからない」というのが本書のテーマのひとつでもあります。カウンセラーであれ誰だれであれ、相談相手がささっと見つかるのであれば、私たちだって苦労しません。

というわけで、ここではまずは、自分で自分にナラティブ・セラピーができるようになることを目指します。自分で自分にセラピ*（セラピーする）ので、私はこれを「ナラティブ・セラピル」と呼んでいます。

ナラティブ・セラピーとは、どのような問題もナラティブが生み出していると考え、問題を生むナラティブに対処していくセラピーです。といつても、「ナラティブ」という言葉がよくわからないのではないのでしょうか。これはですね、はつきり言つて誰にとつてもわかりにくいんです。だからここは「ストーリーとか物語のことね、ふんふん」とさっと進んでください。だんだんわかってきますから。

まずは、^①ストーリーが私たちの現実をつくる、このことを押おさえます。

たとえば、神たまたの崇りを信じている部族の人にとって、神の崇りは「現実」です。それは本当に恐怖きょうふの対象だし、病気になると崇りへの対処として実際にお祓はらいしたりします。他方で、現代を生きる私たちは、神の崇りというストーリーを信じていません。神を恐おそれて暮らすことはほとんどありません。

このように、社会や文化によって人々に共有されるストーリーは違ちがいます。そして、ストーリーによって、人々が何を現実と見なすかは異なります。

それと同じように、その人がどのようなストーリーを生活しているかによって、同じ現象に対する見方は変わります。見方が変われば、その現象への反応も変わります。

たとえば、あなたは四人組の仲良しグループのメンバーだとします。ふと見ると、少し遠くで、自分以外の三人が楽しそうに笑いながら立ち話をしています。

あなたは「なにになに、なに話してるの」と笑顔で三人の輪のなかに入っていくかもしれない。自分たち四人は仲が良いというストーリーを生活しているので、三人のところに駆け寄よって行って、ごく自然に会話に混ざります。

反対に、あなたはその輪に入っていきたくいけど入っていきけず、立ちすくんでしまうかもしれない。頭のなかには「私の悪口で、盛り上がっているかもしれない」という考えが浮うかんでいます。それは、あなたが自分のいないところでは悪口を言われているかもしれないというストーリーを生活しているからです。

このように、同じ現象をどう理解するか、どう反応するかは、その人がどのようなストーリーを生きているかによって変わります。そして、ナラティブ・セラピーの目的は、苦しみをもたらすストーリーから、自分にとって生きやすいストーリーへと、ストーリーを書き換えることにあります。

私たちに苦しみをもたらしているのが「ドミナント・ストーリー」です。ドミナントとは支配的という意味です。ここから、ドミナント・ストーリーとは、支配的なストーリー、人々を苦しめているストーリー、人々にある行動をとらせているストーリーを指します。

(中略)

他方で、私たちを楽にしてくれるのが、「オルタナティブ・ストーリー」です。オルタナティブとは、主流のものに代わる別の新しいものという意味です。ここから、オルタナティブ・ストーリーとは、支配的なストーリーとは別のもうひとつのストーリー、自分にとって生きやすいストーリーのことを指します。

繰り返しになりますが、ナラティブ・セラピーでは、生きづらさを生んでいるドミナント・ストーリーを、自分にとって生きやすいオルタナティブ・ストーリーへと書き換えていきます。

先ほどの、四人組の例に戻ります。「私の悪口で、盛り上がっているかもしれない」という思いが頭に浮かんだまま立ちすくんでいると、あなたに気づいたお友達がこちらを向いて手を振っています。それで行ってみると自分の悪口なんかじゃ全然なくて、面白い話をしていて一緒になって笑う、なんとという展開もあるわけです。こうした経験を繰り返しているうちに、「自分のいないところでは、悪口を言われているかも」というストーリーは書き換えられていきます。友だちへの信頼感が育っていきます。

私たちは日常的に、さまざまな架空のストーリー、いわば妄想を、現実だと思い込み、必要のない苦しみを生きているものです。そんな私たちの妄想を「それって、妄想だよ」とやさしく修正してくれるのは、新しい経験や他者の存在です。

(中略)

日常のなかでもストーリーの書き換えはよく起きますが、それを意識的に行うのがナラティブ・セラピーです。

A、どうやって書き換えるのか。

流れとしては、(1)自分を苦しめるストーリーを自覚し、(2)そこに揺さぶりをかけていき、(3)別のストーリーを立ち上げていくこととなります。

ここでは、ストーリーを書き換えるためにナラティブ・セラピーで行われている二つの方法を紹介します。

ひとつが「ユニークな結果への着目」です。もうひとつが「問題の外在化」です。まずは、前者から説明していきましょう。

私たちは、学校に行けない人に対して、ついつい「なぜ、あなたは学校に行けないのですか？」と聞いてしまいがちです。これに対して、

ユニークな結果への着目では、「あなたが学校に行けた日には、何がありましたか?」、「その時は、あなたは、どうやって問題の影響に抵抗できたのですか?」などと問います。

また、自分に自信が持てない人に、「なぜ、あなたは自信が持てないのですか?」と聞くのではなく、「あなたが自信を感じるのは、どんな時ですか?」、「自信が持てないなかで、あなたは今日までどうやって頑張ったのでしょうか」などと問います。

問題が起らなかった経験や問題が起こってもそれに振り回されなかった結果、B、例外的(ユニーク)な経験に着目するのが、ユニークな結果への着目という技法です。

大学には「勉強が嫌い」と言う学生もたくさんいます。「勉強は、大嫌いです」とハッキリ言い切られると、そこにはミントの香りの風が吹き抜けたかのようなすがすがしさがあったりします。それで、「へえ、そうなんだ」と勉強が嫌いだというストーリーをふんふんと聞いていくと、「高校の時、日本史だけは得意でした」なんていう語りが飛び出してきたことがあります。その時に「日本史は他の教科と何か違ったの?」と聞くと、「そういえば、日本史だけは先生のこと大好きでした」という答えが返ってきたことがあります。

③「私は断固として勉強が嫌いで、例外はありません」と言う女子学生もいました。彼女は勉強なるものに激しいうらみを抱いている様子で、眉間にシワも寄り、ともかく嫌いだというオーラが全身からにじみ出ています。

それでまた私は「へえ、そうなんだ」とふんふんと話を聞いていたところ、彼女は韓国ドラマが大好きだということがわかってきました。韓国系コンテンツ漬けの日々で、休みの日は朝から晩まで浸りきっているそうです。この話題になった途端に「すごい、楽しいです」とふにゃあど彼女の表情はゆるみ、私の研究室にピンクのハートがふわふわ浮かんできそうでした。

ですが私は「そ、そ、それって、韓国語、め、めっちゃめっちゃ勉強しちゃうってんじゃない?」と驚いてしまいました。その女子学生も、「勉強しちゃうってます」と言って、二人で笑ったこともありましたが。実際に、彼女は韓国のドラマや映画は字幕なしで理解できるくらい韓国語をマスターしていました。大学生になるまでの経験で、いわゆる学校のお勉強は嫌いになってしまったけれど、自分で何かを学んでいく力そのものはしっかりと持っていることがわかります。

こんなふうに「勉強なんて大嫌い」というストーリーにおおい尽くされた現実を細かく見ていくと、実際には、そのストーリーには収まらない生きられた経験、生き生きとした経験があったりします。④ナラティヴ・セラピーでは会話をしながら、そうした生きられた経験を見つけて、そこに着目していきます。

ナラティヴ・セラピーはセラピストと行うカウンセリングですが、この方法は、自分に対しても実践できます。

たとえば、「大変なことがあっても、なぜ、わたしは、今、〇〇ができているのだろうか」と問うことで、自分がその問題にいつも負けているわけではない現実に目を向けていくことができます。

そこに現れてくるのは、私たちのさまざまな強味です。ユニークな結果への着目は、うまくやれた時、自分のよい資質、自分の力など、自

分自身のポジティブな側面への着目でもあります。

C、この方法は、他者や自分のつらさを否定する可能性も少し含んでいます。ポジティブだと見なされているものに、ただ光をあてればよいわけではありません。あくまで結果的に、ポジティブな何かは私たちの心のうちに立ち上がってくるのが大事です。そうしてはじめて、そのポジティブな何かは私たちの心をあたため、本当の意味での光になります。心が闇でおおわれている時に、外から無理に光をあてれば、闇は深まるばかりです。

こんなふうには注意しつつも、ユニークな結果にうまく着目できれば、それまで自分を苦しめてきたストーリーは、より生きやすい別のストーリーへと書き換えられていきます。私たちの視野は広がり、思考は柔軟になり、新しい可能性が開けてきます。

(中村英代『嫌な気持ちになつたら、どうする？ ネガティブとの向き合い方』より)

※ 問題作成の都合上、原文の表記を一部改めたり、文章の一部を省略したりしたところがあります。

(注) *クライアント……相談を依頼する人。相談者。

*カウンセラー……相談にのる人。相談員。

*セラピー……治療。

*問題の外在化……この文章では「問題の外在化」については触れていません。

問一 —— ①「ストーリーが私たちの現実をつくる」について、あとの問いに答えなさい。

(1) これは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちの社会に伝わる物語に、私たちの身のまわりの出来事の真実が隠されているということ
- イ 私たちは、自分の社会や文化のしきたりを守ることで、まわりの人と現実的に行動できるということ
- ウ 私たちは、自分の社会の価値観を信じることで、身のまわりの現実を前向きにとらえるということ
- エ 自分たちの社会や文化によって、身のまわりの出来事や経験のとらえ方が決まるということ

(2) この具体例として**適当でない**ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現代では女性も関わるようになった酒造りにおいて、江戸時代では女性はけがれていると考えられていたため、酒蔵に入つてはいけなかった。

イ 日本では、刺青がある人は反社会勢力のイメージをもたれることが多いが、ニュージーランドの先住民であるマオリ族では、刺青は成人のあかしである。

ウ 職業選択の自由な現代においても、古典芸能の一つである能の世界では宗家の子どもが親の仕事を引き継ぐものと考えられている。

エ かつての上下関係の厳しい企業では、年配の上司は新人が早く出勤すべきと考えていたが、規則正しい生活に慣れていない新入社員は、遅刻をよくした。

問二

A から C にあてはまることばを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア たとえば イ つまりは ウ では エ ただし オ あるいは

問三

② 「揺さぶりをかけていき」とありますが、ナラティヴ・セラピーにおいてストーリーを書き換えるための「揺さぶり」とはカウンセラーがどうすることですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア できないことや失敗したこの原因を追及し対策をとるのではなく、ほかの楽しい話で気をまぎらわせるために質問すること
イ できないことや失敗したこの理由を尋ねるのではなく、失敗に負けなかったことやよかったことに目を向けて質問すること
ウ できないことや失敗したことをとがめるのではなく、問題を乗り越える方法をさがしながらやさしく励まして質問すること
エ できないことや失敗したことをその人だけの問題とするのではなく、だれもが直面することだと受け止めた上で質問すること

問四

③ 「『私は断固として勉強が嫌いで、例外はありません』と言う女子学生」とありますが、この女子学生とのやりとりにおいて、筆者が着目した女子学生の「よい資質」とはどういうことですか。それを述べた部分を二十五字以上三十字以内で求め、最初と最後の五字をぬき出しなさい。

問五

——④「ナラティヴ・セラピーでは会話をしながら、そうした生きられた経験を見つけて、そこに着目していきます」とありますが、「ナラティヴ・セラピー」で「生きられた経験に着目」するのはなんのためですか。次の形にあうように、五十字以上六十字以内で答えなさい。

「……………着目することで、……………ため。」

問六

—— a 「光」・ b 「光」の意味の違いを説明したものと最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア a は人間の良さを表す明るい側面を表していて、b は人間の心にあるやさしい思いやりの気持ちを表している。

イ a はつらさを否定する力を表していて、b は心に潜在的に眠っている、力強いエネルギーを表している。

ウ a は心を見つめる目を表していて、b は自分の悩みの解決だけでなくほかの人をも支える大きな力を表している。

エ a は物事に焦点をあてることを表していて、b はおのずと内側からわきあがってきた希望を表している。

問七

この文章の表現上の特徴として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 筆者自身が自問自答する姿勢を示すことで、読者に対しても深く考えさせるようながしている。

イ 耳慣れない専門用語と若者言葉を両方用いることで、カウンセラーの診断に役立つようにしている。

ウ 一般の人にはなじみにくい内容を、身近な例や親しみやすい会話を用いて、理解しやすいように表現している。

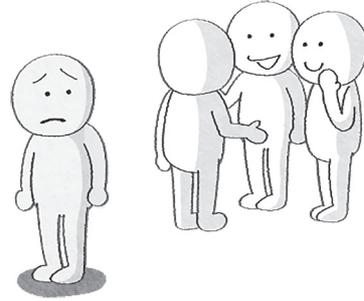
エ カタカナによる表記を多用し、筆者の研究結果が世界でも通用するものであることを暗示している。

問八 この文章を読み、森村さんは次のように内容をまとめました。

○表の「①」、「②」にあてはまる表現を、本文中の言葉を用いて答えなさい。

「①」は十五字以上二十字以内、「②」は十字以上十五字以内とする。

現象(1) 四人組の仲良しグループで、自分以外の三人が楽しそうに笑って立ち話をしている。



		現象に対する見方	現象への反応
ドミナント・ストーリー	自分の悪口を言われている。	「①」	「①」
オルタナティブ・ストーリー	「②」	「ごく自然に会話に混ざり、一緒に笑う。」	

○これを参考に次の表の「③」にあてはまる表現を、自分で考えて十五字以上二十字以内で答えなさい。

現象(2) 新入部員の中で、いつも自分だけが残って練習をするように、先輩せんぱいに言われる。

<p>オルタナティブ・ストーリー</p>	<p>ドミナント・ストーリー</p>	
<p>「 ③ 」</p>	<p>自分は先輩に きらわれている。</p>	<p>現象に対する見方</p>
<p>部活動に前向きに 取り組む。</p>	<p>部活動をやめる。</p>	<p>現象への反応</p>



二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あれは、六年前の夏だ。ぼくは小学五年生だった。友達はお盆休みで、田舎や観光地に消えていたが、夏の遠出を七月に終わらせた我家の人間は、団地の狭い部屋にたいくつな顔をそろえていた。両親、一つ年上の姉の佳奈、そしてぼく。誰も見ていないテレビが、台風十五号の接近を知らせていた。

「あんた、山で大きな木の下じきになって死ぬのと、海で溺れ死ぬのとどっちがいい？」
佳奈がぼくに聞いた。

「両方やだよ。甲子園に出て、マウンドで雷に打たれて死ぬんだ」

ぼくが答えると佳奈はぎゅっと顔をしかめた。

「高校生まで、生きてるつもり？」

「うん」

「だめよ。あんた、早死にするの」

「なんでだよ。佳奈のが先じゃん。順番だもん」

「そんなの関係ない。伊山進は溺れて死ぬのよ。後、二年くらい、生きられるかも」

① ぼくは、鼻の頭を指で押し上げ、ブタっ面をしてみせた。その後で宣言する。

「プールへ行くよ」

すると、たぬき寝入りしていた親父が目を閉じたまま、つぶやいた。

「溺れに行くのか？」

A 「雨降りそうよ。それに寒いわ」

母親のほうはまじめに止めたが、ぼくは聞かなかった。

「肉まんを買ってきてね」

玄関まで見送りにきた佳奈が言った。そしてドアを閉める直前に叫んだ。

「今日が運命の日かもよ。あんた、天国と地獄のどっちへ行くの？」

すごい空だった。百トンはありそうなグレーの雲のかたまりを、湿った風がゴゴゴゴと押し流している。ぼくの自転車も追い風を受けてペダルが軽い。背丈よりも高いひまわりの軍団が、首をそらしてお化けのように踊っているのが、どうも気味悪かった。

入口のシャワーを浴びるとぞくぞくとくる。いつも超満員の市民プールもその日はさすがに人影がまばらだった。丸い池のような子供用に二人、学校と同じ縦二十五メートルの長方形のプールに十人くらいの寒そうな姿が見える。

ぼくは勢いよく飛び込むと、クロールで二十五メートルの往復を始めた。水は冷たかったが、こんなせいたく泳ぎはめったなことでは出来やしない。四往復でいったん上にあがり、今日の目標を決めた。十往復、五百メートル。うわお！ ぼくのクロールの限界は、もったか三百メートルだ。もっとスマートなターンのやり方について、ぼくが考えていると、ブオーというような音をたてて風がおそってきた。水面に小さな波がたつ。ぼたんぼたん和雨粒がやってくる。さすがに、一人二人と帰りはじめ、やがてプールは本当にがらんとした。広々としたブルーグレーの水面に雨粒があちこちで輪を作る。

その時だ。ちょうど一人だけになった泳ぎ手にぼくの目は引きつけられた。男の子だ。年上かな？ ぼくよりも、だいぶサイズが大きく見える。そんなことより、問題は彼の泳ぎ方！ なんておかしな格好だ。クロール、バタフライ、犬かき、それらがごっちゃになったような泳ぎっぷりなんだ。ふざけているというよりは、どう見ても、じたばたもがいている。溺れるんじゃないかと、ぼくが心配になった時、彼は一度立ち上がり、ゆっくり息を吸い込むと、またわきめもふらずに泳ぎ出した。

少しずつ、少しずつ、彼はぼくのほうにやってくる。そして、ぼくは気づいた。彼は腕を一本しか使わずに泳いでいるんだ。右腕。右腕だけ。だから、まっすぐに進めず、下手なボート漕ぎみたいに、ふらふらと回ってしまう。それでも、ようやく彼はぼくのすぐ近くのサイドに曲がりながら、たどりついた。

顔に流れる水を払いもせず、彼は大きく息をはずませた。ぼくは、目を皿のようにしてぶしつけにじろじろと彼を見つめてしまった。左腕がない。ない、としか言いようがない。肩から先の空白に、ぼくは胸がつかまるような息苦しさを覚えた。

彼はぼくの目をきつとにらんだ。ぼくはあわてて視線をそらし、体中がかつかと熱くなった。

「ごめん。つまり……」

下を向いたまま謝ったが、何を言ったらいいのかわからなかった。

「おまえ、両方あるのに右に曲がるのな」

その挑戦的な台詞を、意外にも澄んだ声で言い放つと、彼はプールサイドを歩いていってバスタオルを体に巻き付けた。空白の左腕が緑の布に隠れる。

「バランスが悪いんだ」

大声で言いながら、こちらに戻ってくる青白い長身から、えたいの知れないエネルギーがきらきらとこぼれ落ち、ぼくは射すくめられたように身を堅くした。

雨足が強くなった。プールの係員がたった二人残ったぼくらを追い出しにかかる。更衣室で、義手をつけた彼は、着がえ終わってまごまご

しているほくに、名前を覚えてくれた。浅尾^{あざお}広^{こういち}一。ぼくより二つ年上で、A-28の十一階に住んでいるという。

めちやくちやな雷雨^{らいう}になっていた。

「走ろう！」

広一くんが叫び、ぼくは自転車をそのままにして、彼の後についていった。A-28の建物は、市民プールから歩いて三分もかからない。ぼくの住むC-3はもつと遠いため、彼は家へ来いと言ってくれたのだ。

(中略)

「うちは二人家族なんだ」

広一くんは言った。まだぬれたままの髪^{かみ}が額にはりつき、湯上がりのくせに、青白い顔色をしている。ぼくらはソファを背にして、じゅうたんにすわりこんでいた。そのほうが気楽な感じがする。

「昼間は一人なの？」

ぼくが尋ねると、彼は笑った。

「夜もけっこう、一人」

それが、なんとも大人っぽい言い方だった。

「母さんが、仕事で、どうしても旅行が多いんだよね。でも隣^{となり}に叔母^{おば}さんがいるから」

「へえ。お母さんって、旅行が仕事？」

「うん。なんというか、ピアノストなんだ。ジャズ^{*}の。ジャズ・ピアノスト」

広一くんは奥^{おく}の部屋のグランド・ピアノを見せてくれた。でかくて黒くて、ピカピカ。家で佳奈^{ぎゃくたい}が虐待^{ぎゃくたい}している、ほろのアップライトとはえらい違いだ。

「商売道具だからね。でも、苦情とかきて、母さんも練習に気を使うんだ。プロだし、音がガンと出るわけ
そして、ちよつとはにかんだように口許^{くちもと}をゆるめる。

「でも、もうじき引^ひ越^こすからね。母さん、結婚^{けっこん}するんだ」

「ああ」

ぼくはわけのわからないあいづちをうった。

「君の新しいお父さん」

「うん」

「うれしい?」

「え?」

広一くんは目を伏せて、にやにやした。

「いいんじゃない。かっこいい人」

「へえ。いいな。君のお母さんもかっこいいんでしょ」

広一くんは何も答えずに、グランド・ピアノのふたを開けた。カバーをはずし、右手の指が鍵盤に触れる。

きれいな音。胸にくーんとくるようないい音がした。広一くんは立ったまま、右手の指で、メロディーをたたいた。

「知ってる?」

「ううん」

「サマータム。ジャズのスタンダード・ナンバーだよ。母さんがすごくうまい。これを弾く時の母さんはそりゃあ、もう最高にかっこいい!」

ぼくはうなずいたものの、ジャズという言葉だつてよく知らない。だから、広一くんが、

「伊山君、ピアノ弾ける?」

と聞いてきた時は、ちょっとオーバーすぎるほど、ぶんぶんとかぶりをふってしまった。

「ほんとに十本の指で弾いているのかなつて思うほど、音がいっぱい出てくるんだ、母さんのピアノ。なんか、こう、きらきらと降つてきて、下からもずんずんわいてきて、部屋が音でわあつとふくらむんだ。そりゃあ、いいんだ!」

広一くんは、また鍵盤をたたきました。ぼくは、しだいにその曲を覚えていった。胸にしみる感じがした。聴いたことがないほど悲しくてきれいなメロディーだ。

なぜか、午後の海を思い出した。どこにでもある、少し灰色がかった青い海。いいかげん泳ぎ疲れて、あおむけに浮かんでみると、広い空が白くまぶしく、波に揺られていつのまにかほのぼのと眠くなってくる。幸せな感じ。なのに、ちょっと悲しい。

「うまいね」

ぼくは心からそう言った。彼は単純にメロディーをなぞるだけではなく、和音にしたり、トリルをいれたり、右手一本で、ずいぶん華やかな演奏をしていたのだ。ぼくの耳にはそれがひどくきれいに響く。少なくとも佳奈の雨だれピアノよりは、聞いていてずっと気持ち良かった。

「三歳の時から、クラシック・ピアノをやってたんだ。嫌いじゃなかった」

広一くんは、ふつと言葉をきった。ぼくは思わず、彼の左側のぴくりとも動かない義手に目がいってしまった。彼はぼくの視線を感じたかのように言った。

「これね、事故。自動車事故。左腕がめっちゃくちゃになっちゃった。でも、ぼくはこれでも運がいい方。運転していた父さん、体中めっちゃくちゃで、死んじまったからね。四年前だよ」

ぼくが、ああ、とも、うう、とも言えないうちに、広くんはふりむいてにやっとした。

「好きな曲をぼくが右手のパートだけ弾くと母さんが伴奏つけてくれる。知らない曲でもぼくの勝手な思いつきの節でも、ぜんぜん平気。最高、気分いいんだ。キセキみたい」

そうして立ったまま、片手でまたピアノを弾き出した広くんのノッポの後ろ姿は、冷たい霧にしんと包まれているように、底知れず静かだった。⑥ ぼくは役に立たない自分の左手を握りしめた。ピアノなんて、さわったこともないけれど、せめて佳奈ほどでも弾けたらなあ、とつくづく思った。

家に帰ると、佳奈がぬれた髪をバスタオルでふいていた。彼女はぼくを見ると、とつさにコロシテヤルというこわい目をして、ばたばた部屋に駆けこんでしまった。ぼくは肉まんを買ってこなかったことに気がついた。

「雨がすごくなってきた時、あんたを迎えに行つたの。雷にやられちゃうつて、いきなり飛び出して行って、止めるまもなかったの。一時間くらい帰つてこなかったわよ」

お母さんが言った。

「あんたも電話くらいしなさいよ」

「はあ」

ぼんやりと答えながら、えらいことになったと思つた。こんな時の佳奈のきげんをとるのは、でかい氷の塊に空手チョップをくわすようなものだ。

「オレ、まだ、死ぬ予定ないから」

部屋へ行って話しかけたが、もちろん返事はない。面倒くさくなってピーツと口笛を吹く。続けて、サマータイムのメロディーがころがりだ。でた。

「オレ、ピアノ習おうかな」

突然思いついてそう言うと、二段ベッドの中から、ミッキー・マウスの枕が顔めがけて飛んできた。

(佐藤多佳子『サマータイム』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注) *ジャズ……………アメリカで生まれた民衆音楽のこと。その場でメロディーを作りながら演奏するところが大きな特徴。

*グラランド・ピアノ……………大型で三脚のピアノ。

*アップライト……………家庭用や教育用で用いられる壁型のピアノ。

*スタンダード・ナンバー……………流行に関係なくいつまでも親しまれている音楽の曲目。

*かぶりをふって……………頭をふって、否定の意志を表すこと。

*トリル……………主となる音とそれより少し高い音とを交互に速く演奏して波状の音を作ること。

問一 ㉞「たいくつな」・㉟「大きな」・㊀「ぜいたくな」・㊁「スマートな」の語の中で、他と異なる言葉の働きをしているものを

一つ選び、記号で答えなさい。

ア たいくつな イ 大きな ウ ぜいたくな エ スマートな

問二 ①「ぼくは、鼻の頭を指で押し上げ、ブタっ面をしてみせた」とありますが、「ぼく」がこのような態度をとったのはなぜです

か。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」の余裕の態度を姉に見せつけることで、家族に心配をかけないようにするため。

イ 「ぼく」もおかしな顔で姉を馬鹿にすることで、姉のきついジョークに対抗するため。

ウ 「ぼく」が姉の顔の特徴をまねすることで、姉の悪意のある言葉を打ち消すため。

エ 「ぼく」がおもしろい顔をして姉にやり返すことで、険悪になった雰囲気や和ませるため。

問三 ㉞「たぬき寝入り」・㉟「まごまごしている」という語句のこの文章での意味として最も適当なものを次から選び、それぞれ記

号で答えなさい。

㉞ 「たぬき寝入り」 ア ふてくされて寝ること イ 居眠りすること

ウ 寝たふりをする事

㉟ 「まごまごしている」 ア 戸惑って動けずにいる イ のんびりくつろいでいる

ウ ちこち動き回っている エ ひまですまらなそうにしている

問四 ——②「ちようど一人だけになった泳ぎ手にぼくの目は引きつけられた」とありますが、ぼくの目がこの泳ぎ手に引きつけられた

のはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 台風の近づく中にもかかわらず、自分よりも年上の男の子が、一人で泳ぎ続けていることに違和感を覚えたから。

イ 体の大きな男の子が、さまざまな泳ぎ方を用いて泳ぐ様子が見るからにおかしく、目を離せなくなったから。

ウ プールに唯一残った男の子が、「ぼく」が心配になるほどの不格好な様子で泳いでおり、意識が引きつけられたから。

エ 腕が一本しかない男の子が、左右にゆれながらも必死に泳ぐ姿に胸がつまり、最後まで見届けようと考えたから。

問五 ——③「ぼくはあわてて視線をそらし、体中がかつかと熱くなった」とありますが、この部分には「ぼく」のどのような気持ちが

表れていますか。四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問六 ——④「意外にも澄んだ声」とありますが、「ぼく」が相手の少年の声を「意外にも澄んだ声」だと感じたのはなぜですか。その理

由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」よりも年上であれば声変わり後の低い声だろうと予想していたのに、思いのほか透き通るきれいな声だったから。

イ 「ぼく」の視線に対抗するような挑戦的な内容の言葉とは裏腹に、彼の声音からは自分に対する反感が感じられなかったから。

ウ 言い訳をしようと思いつながら言葉が出ない「ぼく」に怒っていると思っていたのに、彼の声からは怒りを感じなかったから。

エ 両手があっても上手に泳げない「ぼく」に嫉妬していると思っていたのに、ふくみのない声で率直に改善点を伝えてきたから。

問七 ——⑤『三歳の時から、クラシック・ピアノをやっていたんだ。嫌いじゃなかった』という広一の言葉を朗読するとしたら、どのよ

うに読むのが適当だといえますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ピアノの道に進むことをあきらめ切れないう思いを示すように、強い調子で訴えるように読む。

イ 事故で失われた自分の腕や父の命のことを考えていることが伝わるように、悲しみに沈んだ様子で読む。

ウ ピアノが上手だと「ぼく」に言われたことへの喜びを感じている様子で、明るく顔を上げて読む。

エ 片腕を失ったためにピアノを満足に弾けない自分の運命を受け入れた様子で、静かにつぶやくように読む。

問八

——⑥「ぼくは役に立たない自分の左手を握りしめた」とありますが、この場面の「ぼく」の様子からはどのようなことが読み取れますか。その説明として**適当でない**ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 四年前の事故で腕を失ったことと実の父親の死を乗り越えて、凛として居る広一の強さに心ひかれるとともに、彼の打ち明け話に驚き反応がでずに戸惑う自分を情けなく感じている。

イ 近寄りたがたい様子でピアノを弾く広一の後ろ姿から、彼の持つ言い知れぬ悲しみを感じ取り、その悲しみに寄り添えないもどかしさを感じている。

ウ 片手を失いながらも自分自身と向き合い続ける広一と将来の見通しを持たない「ぼく」とを比べて、自分の今後の生き方について思いをめぐらしている。

エ 「ぼく」には左手もあるのにこの場でそれをいかせないことにふがいなさを感じ、ピアノを弾けるようになることで自分にできることをしたいと考えている。

問九

この物語の内容や表現の特徴として**適当でない**ものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 伊山進という人物を語り手とする一人称視点の物語ではあるが、この出来事の六年後にこの年の出来事を振り返るといふかたちをとっている。

イ ——①『雨降りそうよ。それに寒いわ』と「ぼく」を心配する優しい母親と、複雑な状況にある広一の両親とを対比して書くことで、広一の不幸な生い立ちが明示されている。

ウ ——②「首をそらしてお化けのように踊っている」のような比喩表現を用いることで、情景や登場人物の心情を読者にわかりやすく伝えている。

エ 台詞以外の部分は「ぼく」の語りになっているため「ぼく」の心情が描かれることがあり、——③「幸せな感じ」のように、ぼくの心の言葉をそのまま示すような部分もある。

オ ——④「和音にしたり、トリルをいれたり」といった音楽に関する言葉を多用することで、全体が一定のテンポのある詩のよきな文章に仕上がっている。

カ 姉の佳奈は、弟に対してきつい言動をとる一面があるが、——⑤『雷にやられちゃう』と弟を心配して飛び出して行くような優しい一面も持っている。

三

次の①～⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨～⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 卒業式でシユクジを述べる。
- ② オウボウな態度に反発する。
- ③ 全くキヨウミがない。
- ④ チョキンバコを買う。
- ⑤ 保育園に本をテイキヨウする。
- ⑥ 社会のフウチヨウが変化する。
- ⑦ 希望がメバえる。
- ⑧ いかなる天変チイにも対応する。
- ⑨ うぐいすが春を告げる。
- ⑩ 天文学を大学で研究する。
- ⑪ 山の頂に雲がかかる。
- ⑫ 火事で家屋が全焼する。